

問題解決の活動を通して、資質・能力を育成する理科学習 ～指導と評価の一体化を通じた授業改善～

1 研究主題設定の理由

指導と評価の一体化を図るためには、児童一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視し、教師が自らの指導のねらいに応じて授業での児童の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくことが大切である。学習指導要領で重視している、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して、理科における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っている。

そこで、今年度より江戸川区小学校教育研究会理科部では、学習評価の基本的な考え方や、理科における評価規準の作成及び評価の実施等について考え、各学年・単元別に単元や題材に基づく学習評価についての研究を推進する。また、各研究ブロックにおいては、学習評価を含むカリキュラム・マネジメントを円滑に進めていくことで、「指導と評価の一体化」を実現し、子供たちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を育てていく。

2 研究の方法

『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』(国立教育政策研修所 令和2年3月)を基に評価規準を作成し実践する。

目標である資質・能力と評価規準は整合性をもたせる必要があるため、指導案上では単元評価規準とともに、評価基準を作成する。主に「各教科書会社から示されている評価資料」を参考に作成し、A 基準児童、B 基準児童の妥当性を検討することが考えられる。また、A・Bの基準に達しない児童への支援も考えていく。

また、児童の実態に即した単元指導計画の立案を行うため、単元の学習を始める前に生活体験や既習事項を調査し、児童の実態を分析する。授業後には児童に振り返りを書かせるとともに、単元指導後には学習評価を行い、児童の変容や改善を分析する。さらに、学習評価を基に教育課程の改善・充実を図ることで、指導改善や支援の充実を目指していく。

3 研究の日程

開催日	会場	内容
6月14日	一之江第二小	研究授業 ① 3年 単元名 「風やゴムのはたらき」 講師 元帝京平成大学教授 船尾 聖 先生
8月2日	谷津干潟	実地研修会 谷津干潟自然観察センター 野鳥及び生き物観察プログラム
10月4日	第二葛西小	研究授業 ② 5年 単元名 「天気の変化」 講師 学校法人希望が丘学園統括顧問 日置 光久 先生
11月8日	上小岩小	研究授業 ③ 4年 単元名 「ものの温度と体積」 講師 元帝京平成大学教授 船尾 聖 先生
1月17日	西一之江小	研究授業 ④ 5年 単元名 「ふりこのきまり」 講師 学校法人希望が丘学園統括顧問 日置 光久 先生